

日本 ハンザキ研究所ニュース No.6

発行 2006. 7. 31

〒679-3341兵庫県朝来市生野町黒川 292

TEL/FAX (079) 679-2939

日本ハンザキ研究所 橋本 武良

オオサンショウウオの個体識別登録数

1975年（昭和50年）に生野町市川本流の魚ヶ滝で調査を開始して32年目になり、今月末で209回の調査を実施し約1,300個体を登録した。無論この数は私一人で達成出来たものではなく、当初の共同調査チームの神戸市立須磨水族館（現・須磨海浜水族園）の皆さんや姫路市立水族館の旧・現職員、ボランティア諸君、国外からの参加者もあり、多くの方々の協力の賜物です。最近では、兵庫県自然保護協会の大沼・川上ペアの機動的で精力的な協力やハンザキ研という基地が出来たこともあり、登録数が飛躍的に増加しました。

最初の調査範囲は、魚ヶ滝下流部の中州を一周する約500m程でした。しかし、調査を重ねるうちに新しい個体が次々に現れるということで、次第に範囲が広がっていき、本流2.0%程と支流の滝谷1.0%がメイン調査エリアとなった。1987年に約4.0%上流の籾野地域から産卵巣穴の情報をもたらされ、繁殖期にはその周辺1.0%を調査することにしました。また、生野ダムによって銀山湖が出現したのですが、そこに流れ込んでいる市川の旧・支流である法道寺谷・横谷・青草谷との間での行き来の有無にも注目し調査範囲としてきました。

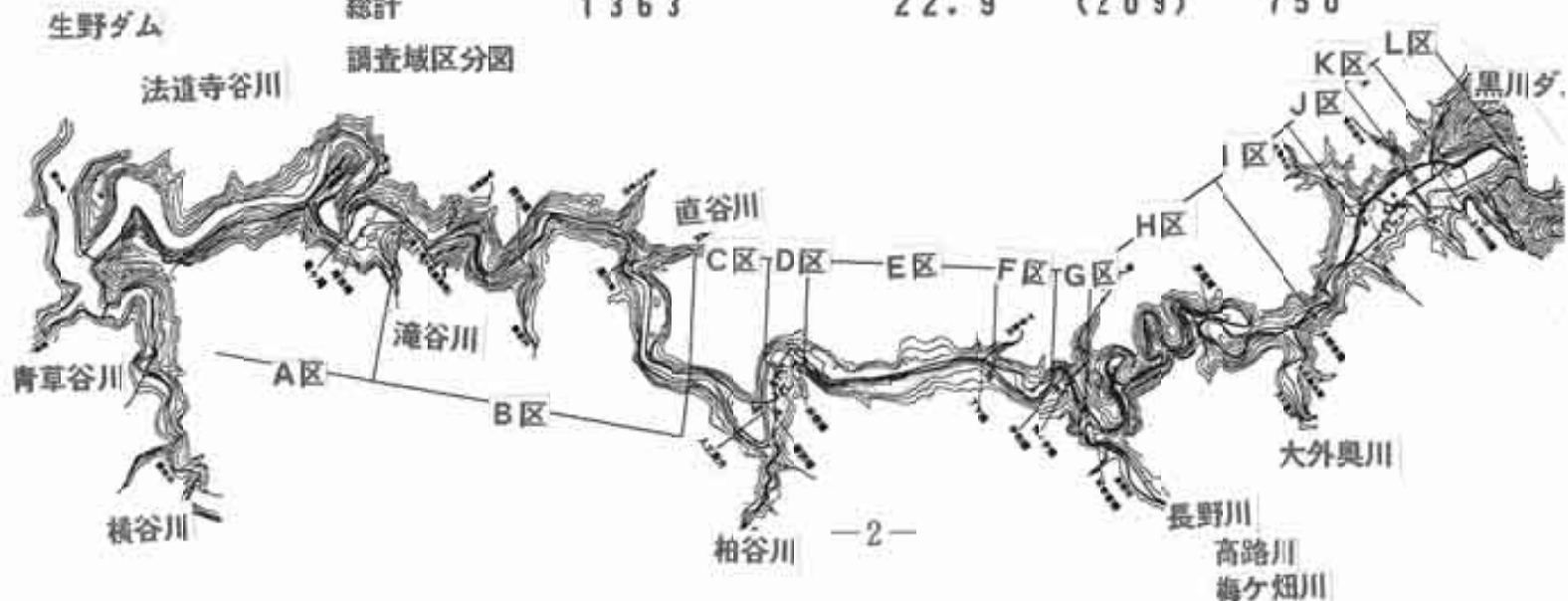
2003年からは、大沼・川上ペアの協力で生野ダムと黒川ダムの間に挟まれた流程14%の全域調査を実施することになった。現在は、籾野からさらに4.0%上流のハンザキ研周辺に重点を置き採捕登録し追跡調査を実施中である。オオサンショウウオは夜行性が強い動物であり、なかなか見かける機会は少ないが、市川水系には昔から多くの棲息が知られていたようである。現在では特別天然記念物に指定され厚く保護されているが、その環境が保護されているとは言いがたい現状でもある。

この32年間に登録した個体の、最初の採捕地点別の数を調査区分図のA～Lと支流ごとの登録数を整理し、表に示してみた。無論、最初の調査範囲であるA区やC区（籾野）の登録数が多くなるのは、調査回数の多さにも関係するものであるが、反対に再捕されていない個体も多くあり、死亡している可能性も高いものと考えられる。また、最初の採捕地点から流されたり遡上したりという例もあるので、現在の棲息分布数を反映するものではないが全体的な分布の傾向はつかむことができるだろう。

調査区別の棲息分布状況

区分	地名	登録数	個体数/‰	調査範囲‰	調査回数	M.チップ挿入数
A	魚ヶ滝	566	284	2.0	142	172
B		130	57	2.3	3	91
C	籾野	199	199	1.0	61	156
D		7	14	0.5	0	7
E		64	64	1.0	4	55
F		20	50	0.4	6	14
G	ハンザキ研	28	84	0.3	12	28
H	九曲り	91	26	3.5	4	91
I		44	88	0.5	0	44
J		7	23	0.3	0	7
K		2	7	0.3	1	2
L	黒川ダム直下	0	0	0.2	0	0
支流						
	滝谷川	87	87	1.0	65	4
	横谷川	42	84	0.5	10	8
	青草谷川	26	26	1.0	7	15
	法道寺谷川	11	11	1.0	1	9
	柏谷川	1	1	1.0	1	0
	直谷川	1	10	0.1	1	1
	大外奥川	10	10	1.0	0	10
	長野川	34	11	3.0	6	34
	支流 高路川	0	0	1.0	0	0
	梅ヶ畑川	2	2	1.0	1	2
総計		1363		22.9	(209)	750

調査域区分図



オオサンショウウオの死体収容

オオサンショウウオの死体情報は貴重なものである。特別天然記念物の本種を解剖できる機会はほとんど無いので、死体発見の知らせを受けたら喜ぶべきことなのだ。しかし、大多数の例では腐敗の進んだサンプルであるのだが、これも致し方ないことだろう。今月は2件の死体が手に入った。その概況を下記に示す。

①7月8日兵庫県朝来市生野町の市川本流

生野ダム下流で来年度に河川の付け替えによる道路の拡幅工事が予定されている場所である。兵庫県から事前調査を受託した株式会社ウエスコの環境調査部職員が他の用事で近くへ来たついでに、河川の下見に入って発見した物である。全長が約80cmの比較的大型個体であったが腐敗が進み、ほぼ骨のみの状態であった。マイクロ・チップの反応も無く骨格を残すだけと考えて、乾燥させるべく発泡スチロールの板に乗せておいた。翌朝、死体が1cmほど動いていた(写真1)・・・

②7月26日兵庫県たつの市の掛保川本流

あまり腐敗が進んでいないサンプルとの報告で自宅へ運んでもらった。しかし、同時に頂いた現場写真では水面に浮きガスっている状況であった。まあ、一般的に発見されるのはこのような状態のものなので驚きはしなかったが、メスを入れた途端に猛烈な腐敗臭と溶けた内臓が流れだし、性別の判定もできなかった。しかし、棲息情報の極端に少ない川からの貴重な情報である。そのまま新聞紙とポリ袋に包んで8月2日にハンザキ研へ輸送し、開封したが広い校庭中に腐敗臭をまき散らした。数時間後に見にいくと又々1cmほど死体が移動(写真2)していた。尾部の脂肪層が食われていたが犯人は不明だ。クヌキだろうか?・・・

モリアオガエル続報

幼生の変態は孵化後1か月くらいと文献には書かれている。最初の孵化は5月下旬だから続々と小蛙の上陸が見られるものと期待していたが、一向にその気配が無い。どうも餌不足が原因ではないかと思われる。山中のドラム缶で冬が迫っているのに変態しないでやせ衰えたオタマが泳いでいたという話も聞いた。古くなったオニギリに黒山のようにオタマがたかり、オレンジの皮にも腐れジャガイモやダイコンにも真っ黒になって群がる。池の底の石の表面が白っぽくきれいになっていたのもオタマに嘗めつくされた結果なのだ。流しのゴミ・ネットは洗い難いがオタマに頼むと綺麗になる(写真3)。水量5cmほどの小池に50卵塊はやはり多すぎたのだろう。7月下旬で後肢が出ているオタマがようやく現れたが、このままでは、果して全てのオタマが変態に行き着くのか心もとない。

ハンザキ研日誌 2006年7月

- 3日：生野支所から自転車でハンザキ研までトライ、2時間の上り坂はハードだ!!
：校庭の花壇でイシガメ卵1確認、産卵穴があったがヘビに被害を受けたのか?
：まだ産卵間もないモリアオガエルの卵塊あり(池とプール共にまだ産卵続く)
- 4日：児童用のプールでアマガエルの卵?22粒発見、親の姿は見えていないのだが?
：池のモリアオガエルのオタマの尾が食いち切られるので、とうとうイモリの排除にかかる(月末までに50匹をオーバーフローから河川へ戻ってもらった)
- 7日：株式会社ウエスコの環境部門研修会(約50名)生野町で開催。ハンザキのレク
- 8日：生野ダム下流でオオサンショウウオの腐乱死体1発見、搬入される。
- 9日：丹波市神楽(しくら)の郷でハンザキのレク、加古川水系でハンザキ調査予定
：黒川地域の人がスズメバチの巣を持参、壁に半球状に付いていたので内部構造が良く分かる良い標本である。
- 10日：朝来市教育次長他1名視察に来所
：兵庫県自然保護協会理事・大沼氏調査の打ち合わせに来所
：ハンザキ研横の山林内でヒメボタルの飛翔確認
- 11日：モリアオの池は餌不足で底の石の表面がきれいになってきた。にぎり飯を投入すると真っ黒になって摂食、オタマの移植も考えねばならないか?
：県・龍野土地改良事務所より2名来所。掛保川の吉島統合頭首工の魚道改修・新設工事報告書を受け取る。
- 12日：朝来市芸術文化課長他2名来所、取材候補の調査
- 19日：黒川地域活性化協議会開催、役員以外の参加もあり24名となる
大阪府大・田口さん来所～21日まで、データの整理
- 31日：瀬戸市オオサンショウウオ調査(文化庁補助事業)委員会発足
(今月は3回18日間の出勤?でした。来訪者を含めて総計131人の利用がありました。
昨年8月の開所以来25回93日、総計387人の利用という状況です)

ハンザキ・グッズ・コレクション

5)三重県

- ①名張市・赤目四十八滝：爪楊枝入れ・灰皿・お猪口・キーホルダー・重し(焼き物)
②日本サンショウウオセンター：入館日打刻メダル(金属製)

6)静岡県

- ①富士宮市・清 氏：小銭入れ(布製)・・・腹側にファスナーが付いている(写真f)。
京都府城陽市の中川氏(巨椋鳥類研究会)からプレゼントされ、産地を問い合わせたところ、製作者からもう一点届きましたが、腹部がハンザキになります。有り難う!!



写真1 夜間1匹動いた死体(朝来市生野町市川)



写真4 イシガメの転がっていた1卵と巣穴



写真2 屋間に尾部を食われて動いた死体(たつの市掛保川)

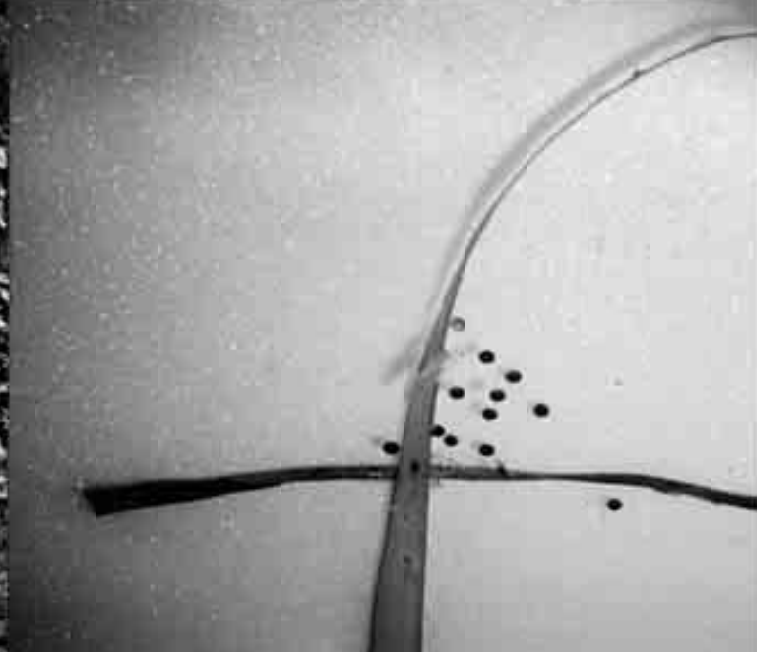


写真5 水中に垂れた草に産みつけられたアマガエル?卵



写真3 モリアオ幼生のクリーニング店



写真6 オオサンショウウオの小銭入れ
(右側は腹部のファスナーを)